

サイエンスアゴラ 2012



見つけようあなたと「科学」のおつきあい



11/10<土>, 11/11<日>

会場：東京・お台場地域

日本科学未来館、産業技術総合研究所臨海副都心センター
東京都立産業技術研究センター、東京国際交流館、
シンボルプロムナード公園など

同時開催

産総研臨海副都心センター一般公開

トップ科学者と語る「FIRSTサイエンスフォーラム」

入場無料 <http://scienceagora.org/>



主催：独立行政法人科学技術振興機構

共催：日本学術会議、独立行政法人産業技術総合研究所、地方独立行政法人東京都立産業技術研究センター、国際研究交流大学村、東京臨海副都心グループ

協力：株式会社フジテレビジョン

後援：内閣府、文部科学省、農林水産省、独立行政法人国立科学博物館、独立行政法人日本学術振興会、独立行政法人理化学研究所、独立行政法人宇宙航空研究開発機構、独立行政法人海洋研究開発機構、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台、公益財団法人日本科学技術振興財団・科学技術館、ブリティッシュ・カウンシル、東京都教育委員会、埼玉県教育委員会、神奈川県教育委員会、千葉県教育委員会、全国中学校理科教育研究会、全国科学博物館協議会、全国科学館連携協議会、公益社団法人日本技術士会（予定を含む）

交通アクセス

新交通ゆりかもめ：「船の科学館駅」東口下車 徒歩5分

「テレコムセンター駅」下車 徒歩4分

東京臨海高速鉄道りんかい線「東京レポート駅」下車 徒歩15分

*東京レポート駅から日本科学未来館まで無料巡回バスが約15分おきに運行

サイエンスアゴラとは

私たちとサイエンス、そして社会との関係について考える「ひろば(アゴラ)」、それがサイエンスアゴラです。科学技術を活用してよりよい社会を実現するための方策を多角的に論じ合う複合型のイベントとして2006年より開催されています。

2011年の東日本大震災を経験した今、私たちは一人ひとりが科学技術とどうかわり、何を選択していくかが問われています。その判断が、私たちの暮らしのみならず、国際社会や未来を支える子どもたちの代にも影響を与えます。そして何を選択するか判断するために、科学コミュニケーション手法を真に社会に役立つものにするのが求められます。

楽しむ、考える、共有する、多彩なイベント

サイエンスアゴラは、科学コミュニケーション実践の場として、子どもから一般市民や専門家まで、あらゆる立場の人たちが参加する多彩なイベントを目指しています。

今年は11月10日(土)、11日(日)の2日間(ともに10:00～17:00)に、シンポジウム、サイエンスカフェ、トークセッション、実験工作教室、サイエンスショー、ワークショップ、ブース・ポスター展示など、200を超える企画が展覧されます。



サイエンスアゴラ 2012 プログラムの例

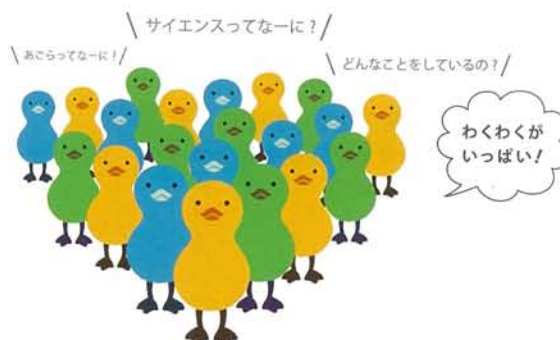
- ◎ サイエンスの力で開発途上国を救え
 - ◎ 映画で語るサイエンス
 - ◎ 福島での活動経験から習うリスクコミュニケーション
 - ◎ 科学にもとづいた、食のコミュニケーションを!
 - ◎ えっ? そんなに身近なの? 遺伝子組換え技術を知ろう
 - ◎ 生活習慣病予防の対面交渉ゲームを体験しよう
 - ◎ ポッドキャストで科学とつきあう
～あのワクワクした科学はどう実現されたのか～
 - ◎ 対話の場は何を生み出しているか
～世界市民会議 WWViews の取り組み～
 - ◎ 放射線って、どのようにして測っているの?
 - ◎ 討議: 高レベル放射性廃棄物の処分はどうあるべきか!?
 - ◎ 「ヒッグス粒子」発見で何が解決したのか?
 - ◎ 北極があつい! ～北極研究の今～
 - ◎ 本音で語る『専門職学位』～薬学6年化は成功するか?～
 - ◎ がん予防の実験を見てみよう
 - ◎ 学生による科学の種の蒔き方
 - ◎ 科学の伝言ゲーム～新聞・広報・原著論文の読み比べ
 - ◎ 科学の『押し売り』?
- 無関心層になぜ・どうやって科学を伝えるのか -
 - ◎ 高専発 学生と発信する天文学
 - ◎ 博士がサイエンスコミュニケーターとして大活躍!
 - ◎ 『現場の声』を活かした教材・教具の開発・工夫
 - ◎ 共に語ろう、東日本大震災後の海洋科学研究と教育
 - ◎ 科学・技術でわかること、わからないこと Part II
- ※タイトルその他の情報は予告なく変更となる場合があります。

ほかにもサイエンスアゴラ2012で行われる企画は盛りだくさん!
詳しい情報・各種お問い合わせは公式ウェブサイトへ!

<http://scienceagora.org/>

独立行政法人科学技術振興機構(JST)
科学コミュニケーションセンター

〒102-8666 東京都千代田区四番町 5-3 サイエンスプラザ



【将来の科学人材育成から見た秋入学の是非】

開催日時：2012年11月10日（土）10時30分～12時

開催場所：東京都江東区青海2-3-6

日本科学未来館 7階 イノベーションホール

定員：103名（入退場自由）

<概要>：

東京大学が提案した「秋入学」が話題となっている。これは、大学の国際化と大学生の意識向上を意図したものとされているが、現時点では具体的にどのような効果が期待できるのかという検証がされないまま、イメージのみが先行している感が否めない。ここでは、将来の日本にとって本質的となる科学・技術人材の育成という観点から、この秋入学がどのような意味を持つのか、プラスとマイナスの両面から考察してみたい。

<プログラム>

1. 開会挨拶（5分）

須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

2. 話題提供1（20分）

「科学人材育成に対する秋入学のメリット」

堀井 秀之（東京大学大学院工学系研究科教授）

3. 話題提供2（20分）

「秋入学を超えて」

金子 元久（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授）

4. パネル討論（40分）

パネリスト：堀井 秀之（東京大学大学院工学系研究科教授）

金子 元久（日本学術会議第一部会員、筑波大学大学研究センター教授）

鈴木 清夫（筑波大学附属駒場高等学校数学科教諭）

大竹 暁（文部科学省大臣官房審議官（研究開発局担当））

コーディネーター兼パネリスト：

須藤 靖（日本学術会議第三部会員、東京大学大学院理学系研究科物理学専攻教授）

5. 閉会挨拶（5分）

秋田 喜代美（日本学術会議第一部会員、東京大学大学院教育学研究科教授）

【科学・技術でわかること、わからないこと Part II】

開催日時：2012年11月10日（土）13時～14時30分

開催場所：東京都江東区青海2-3-6

日本科学未来館 7階 イノベーションホール

定員：103名（入退場自由）

<概要>：

科学・技術に「絶対」はないことは、科学者や技術者にとっては自明のことだが、社会一般に広く浸透しているとは言いがたい。昨年の東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故は、科学・技術と社会との関係を改めて問い直す機会となり、残念なことに、我が国の科学・技術と科学者・技術者への信頼を著しく損なうものとなった。同時に、予想しなかった事態に直面した時に、科学者・技術者が適切に対応し、その行動を通して市民に信頼されるためには、相当の努力を必要とすることも明らかになった。では、「科学・技術に絶対はない」という科学リテラシー

の基本を社会に定着させ、科学・技術と社会の関係に基づく新しい社会システムを構築していくためには、どうすればよいのだろう。本セッションでは、大震災から得られた教訓を踏まえて、社会全体の科学リテラシーを高めるために学会議として今後何を為すべきかを論じる。

<プログラム>

1. 開会挨拶 (5分)

毛利 衛 (日本学会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長)

2. 話題提供 1 (20分)

「食の安全・安心とリテラシー」

唐木 英明 (日本学会議連携会員、倉敷芸術科学大学長)

3. 話題提供 2 (20分)

「くすり一錠に込められたサイエンス」

高橋 秀依 (帝京大学薬学部教授)

4. パネル討論 (45分)

パネリスト：毛利 衛 (日本学会議連携会員、独立行政法人科学技術振興機構日本科学未来館館長)

唐木 英明 (日本学会議連携会員、倉敷芸術科学大学長)

高橋 秀依 (帝京大学薬学部教授)

竹内 慎一 (NHK制作局 青少年・教育番組部チーフプロデューサー)

立川 雅司 (日本学会議連携会員、茨城大学農学部教授)

コーディネーター兼パネリスト：

室伏 きみ子 (日本学会議第二部会員、お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科教授)

【日本学会議提言「学術からの提言—今、復興の力強い歩みを—」シンポジウム】

開催日時：2012年11月10日(土) 15時30分～17時

開催場所：東京都江東区青海2-3-6

日本科学未来館 7階 みらいCANホール

定員：300名(入退場自由)

<概要>：

日本学会議東日本大震災復興支援委員会が平成24年4月9日に公表した復興に向けた提言「二度と津波犠牲者を出さないまちづくり」、「被災地の求職者支援と復興法人創設」、「放射能対策の新たな一歩を踏み出すために」、「災害廃棄物の広域処理のあり方について」の紹介と参加者との議論により、これから何ができるか、何をすべきか、について共通認識を持つことを目標とする。さらに、提言の具体化に向けてどのように進めていくかについて議論を展開する。

<プログラム>

1. 開会挨拶 (5分)

小林 良彰 (日本学会議副会長、慶應義塾大学法学部客員教授)

2. 基調講演 1 (20分)

「日本学会議からの提言」(仮題)

大西 隆 (日本学会議会長、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)

3. 話題提供 (20分)

「コミュニティの再生に向けて」(仮題)

山川 充夫 (日本学会議第一部会員、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長)

4. パネル討論 (40 分、会場との質疑応答を含む)
パネリスト：大西 隆 (日本学術会議会長、東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授)
 山川 充夫 (日本学術会議第一部会員、福島大学うつくしまふくしま未来支援センター長)
 内堀 雅雄 (福島県副知事)
 及川 勝 (全国中小企業団体中央会政策推進部長)
 永山 悦子 (毎日新聞科学環境部)
- コーディネーター：
 渡辺 政隆 (日本学術会議連携会員、筑波大学教授)
5. 閉会挨拶 (5 分)
 春日 文子 (日本学術会議副会長、国立医薬品食品衛生研究所安全情報部長)
- 全体司会：柴田 徳思 (日本学術会議連携会員、株式会社千代田テクノ大洗研究所研究主幹)

【地球に生きる素養を身につけよう】

開催日時：2012 年 11 月 11 日(日) 10 時 30 分～12 時

開催場所：東京都江東区青海 2-3-26

産業技術総合研究所臨海副都心センター別館 11 階 第 2・3 会議室

定員：70 名 (入退場自由)

<概要>：

大地震、津波、集中豪雨、突風・竜巻など、地球上に生きる、我々、地球人は、活動的な地球によってさまざまな影響を被っている。激しく変化する自然現象に対して、安全に立ち向かうためには、「地球に生きる素養を身につける」ことが大切である。地球、そして身の回りにある自然を科学的に理解し、自然が引き起こす影響を適切に予測し、予測の限界を知ったうえで行動できることが、「地球に生きる素養」あるいは「教養」である。本講演会では、さまざまな自然現象に対して、われわれがどう対処し、暮らすのか？ について紹介し、参加者と議論する。

<プログラム>

1. シンポジウムの趣旨説明
北里 洋 (日本学術会議第三部会員、独立行政法人海洋研究開発機構海洋・極限環境生物圏領域領域長)
2. 2011. 3. 11 地震・津波に学ぶ
入倉 孝次郎 (日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)
3. 日本列島の成り立ちと地質災害
千木良 雅弘 (日本学術会議連携会員、京都大学防災研究所教授)
4. 「命の水」の危機-水資源の未来
益田 晴恵 (日本学術会議連携会員、大阪市立大学大学院理学研究科教授)
5. ガスハイドレートエネルギー資源に
松本 良 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)
6. 住んでいる土地を知る
熊木 洋太 (日本学術会議連携会員、専修大学文学部教授)
7. 宇宙から地球を考える
佐々木 晶 (日本学術会議連携会員、大学共同利用機関法人自然科学研究機構国立天文台水沢観測所教授)

【討議：高レベル放射性廃棄物の処分はどうあるべきか！？】

開催日時：2012年11月11日(日) 10時30分～12時

開催場所：東京都江東区青海2-3-6

日本科学未来館 7階 みらいCANホール

定員：300名(入退場自由)

<概要>：

日本学術会議が平成24年9月11日に原子力委員会に回答した「高レベル放射性廃棄物の処分に関する回答」を紹介し、パネルディスカッションを通じて高レベル放射性廃棄物の処分に関する様々な見解を会場に提示し、その上で、会場と意見交換を行う。

会場にこられた方々の日本学術会議の回答に関する理解を深めるとともに、各自が高レベル放射性廃棄物の処分問題を自らの課題として捉え、解決への道を各々検討してもらう礎とする。

<プログラム>

1. 開会挨拶および基調講演(25分)

「高レベル放射性廃棄物の処分に関する回答」

今田 高俊(日本学術会議第一部会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)

2. パネル討論(40分)

パネリスト：今田 高俊(日本学術会議第一部会員、東京工業大学大学院社会理工学研究科教授)

武田 精悦(原子力発電環境整備機構理事)

西尾 獏(特定非営利活動法人原子力資料情報室共同代表)

小出 五郎(元NHK解説委員、科学ジャーナリスト)

コーディネーター：

柴田 徳思(日本学術会議連携会員、株式会社千代田テクノ大洗研究所研究主幹)

3. 会場との意見交換(20分：パネリスト、コーディネーターはそのまま)

4. 閉会挨拶(5分)

山地 憲治(日本学術会議第三部会員、公益財団法人地球環境産業技術研究機構(RITE)
理事・所長)

※サイエンスアゴラ2012 詳細URL

<http://scienceagora.org/>